

核兵器廃絶願って、「平和大行進」に700人がパレード!



5月20日(土)10時に幹線(礼文)東京)コースは野幌百年記念塔で江別原水協から引継ぎ、20の札幌平和行進をスタートしました。途中白石区内では、毎年恒例になった子どもたちが宣伝カーから「核兵器はいりません」「広島、長崎に原爆が落とされませんでした」と訴えました。一緒に訴えた母親は、「戦争はいや。二度と繰り返したくない。核兵器をなくそうと運動している自分の姿を子どもたちに伝えたい。子どもの成長に合わせ原稿をつくりました」と話していました。高教組札幌支部は、一

条大橋河岸公園から札幌駅まで行進に参加しました。北区コースは麻生北公園から出発しました。歩くことはできないけれど歌声で平和行進に参加しようと、アコーディオンの伴奏で「おり鶴」「青い空は」「若者たち」など手話コーラスも交えて賑やかにスタートしました。網の目の手稲コースは、自分の町から歩きたいと今年で5周年。いろいろな団体に平和行進への参加・協力の申し入れや募金を訴えました。行進には120人以上が参加し、JR手稲駅北口ではコールしたり署名行動も行いました。今年からJR札幌駅南口広場で夕方、札幌の集結集会を行いました。北海道被爆者協会の長井文雄さんが「私は、10歳で被爆しました。どうしても核兵器をなくさないと。死ぬまで核兵器をなくするために頑張りま

今年の原水禁世界大会代表派遣は、長崎大会(8月6日〜10日)

1955年から始まった原水禁世界大会。今年で62年目。広島・長崎に原爆が投下され72年目の夏。いま世界は、「核兵器禁止条約」に向け討議が行われ、7月までに「条約案」が提出されようとしています。

退職金削減反対!最賃アップ!教育条件改善など求める中央行動参加報告

一昨年40万円以上削減された退職金がさらに70万円以上削減されようとしていることを皆さんご存知でしょうか。私たちはそんな人身御供的な公務員の立場に抵抗するためにアリの一穴にでもなればと行動しています。5月25日は「最低賃金の引き上げ、全国一律最賃制度確立、公務員賃金の改善・退職手当改悪阻止」労働法規緩和反対、長時間残業是正、非正規労働者の均等待遇実現」「安保法制・

共謀罪・社会保障制度の改悪反対」など、私たち労働者のより良い人間的な生活を求めて、人事院、厚生労働省、内閣人事局、首相官邸の前で訴えました。26日は、全国高校懇談会で教育課題を全国から集め学習し、国会の動向も学習しながら文部科学省、防衛省、厚生労働省、日本学生支援機構、国会議員、知事会、PTAに要請行動を行いました。もちろん、すぐに「はい、そうですか。」と聞いてくれるはずもありませんが、繰り返して訴え続けるしかありません。公務員ということで当たり前のように国民のためという大義名分のもとに政府の思い通りに給与、手当を削減され続けても、あしたのジョーのノーガード戦法のように黙って打たれ続けていられません。

札幌支部支部長 (手稲養護学校) 桑原岳夫

今年も「夏闘争・和やか」の協力を!

毎年夏・冬2回、「はばたき」などを通して、教職員のみならず「闘争・平和カンパ」をお願いしています。いつもご協力いただきありがとうございます。みなさんから寄せられた「カンパ」につきましては、賃金闘争はじめ生活権利を守るためのとりくみはじめ憲法平和・教育研究活動などに活用させていただきます。特に、みなさんへできるだけ

はばたき

道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター
3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

退職金削減!とんでもない!人事院が「見直し」意見

4月19日、人事院は政府に対し、同院が行った退職給付の官民比較調査結果を提出。公務員の退職給付について「公務員が民間を3.0%上回」っており、「官民均衡の視点から退職給付水準について見直しを行うことが適切」とする「見直し」表明を行いました。

アベノミクス破壊のつむぎ

そもそも、今回の調査は「異次元の金融緩和」など破綻したアベノミクスで膨張する借金や生活保護、社会保障予算などの削減をすすめる安倍政権が、膨れ上がる国民の不満の矛先を公務員給与削減でかわそうという思惑で政権が人事院に強いたものです。5年前の調査以来、アベノミクスの下で民間給与が伸びるどころか逆に減っている失政の結果と不満をかわすため、公務員給与にその矛先を向けるなど本末転倒の極みで国民経済への悪影響は必至です。

実態無視の民間比較

民間では高齢者雇用安定法が60歳定年後の従業員を再雇用を企業に義務付け、再雇用希望者の雇用はほぼ100%です。しかし私たち道立学校で働

く教職員はどうでしょう?「退職の翌日に再任用するものとす」とする閣議決定(2013年3月)や総務副大臣通知(同)にも関わらず、道立高校の教諭の再任用は希望した教員の6割、8割。定年退職者のうち再任用された率は4割5割に過ぎません。それは、定年を迎えた教員に対し都市部と郡部の人事異動促進を目的とした2005年の通知(教職50号)を機械的に当てはめ、異動を求めることで「辞退」させられてきたからです。

来年の定年退職者は63歳にならなければ年金の報酬比例部分(平額給付)も始まり、最大3年間無収入になります。「定年後の生活を支える生活給」としての役割を問うなら、「再任用できない」実態を無視した退職

情報提供もしたいと考え、この「はばたき」は、約5000名いる札幌・石狩の全教職員へ配布させていただいています。今年度も、退職金削減反対・まともな再任用制度等を求めるとともに、原水禁世界大会への代表派遣、さっぽろフェスタなどの市民との共同した教育研究会などにもとりくみます。今後とも、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いたします。

- 2つの署名にご参加ください
- ①退職手当の拡充を求める要求署名
 - ②公務労働者の賃金・労働条件の改善を求める署名

Iは、安倍晋三内閣総理大臣宛、②は、人事院宛、の2つの署名です。毎年8月、人事院は、政府に対する「人事院勧告」を行います。従って7月までに私たちの要求を「署名」の形で示し、「中央交渉団」に託すことがもっとも大きな力となります。「7・21中央行動」において、北海道代表団が提出します。中央行動代表派遣のための「夏闘争カンパ」にもご協力ください

2017年度 第1回 学校職場づくり学習会のご案内

「どこからはじめる学校づくり」 ～共通理解ってほんど?～

【日程】6月18日(日)10:00～16:00

◎第1部 10:00～12:00

《講演》10:10～12:00

「どこから始める学校づくり」

講師 福井雅英さん(滋賀県立大学 特任教授)

福井先生は、中学校教師を約20年勤められ、その後北海道教育大学教職大学院の大学院長など、北海道の多くの教師を支援してこられました。近年では札幌市の中学生の自死の調査委員会の委員長として真相究明に大きな役割を果たされました。これらに共通する「安心と自由の学校づくり」、「子ども理解のカンファレンス」(著書)の考え方はこれからの高校教育、若者の社会的自立の支援には不可欠ではないでしょうか。基調な機会をお聞き逃しなく!

…昼食休憩…

◎第2部 13:00～

《パネルディスカッション》

「私たちの学校づくり」

パネラー

本多由紀子さん 加藤陽喜さん

丸山 稔さん

◎ところ：高等学校教職員センター4階大会議室

◎参加費：無料です

*どなたでも自由に参加できますが、申込は各学校分会もしくは札幌支部まで。

職場の教職員の皆さん、こんにちは。
「共通理解のもとで学校が一丸となつてとりくまなくてならない」など、最近この「共通理解」という言葉が学校現場では踊っています。一見、真つ当なことを言っているように思えますが、実は「共通理解」という言葉が「先生」個人の主体性を縛り、「決められたことをやるのが当たり前」だと思いがちです。

しかし、「先生」とはそんな仕事でしょうか。目の前の生徒にとって大切だと思うことに取り組んだり、創意工夫ある教育活動を行ったり、先生や生徒の主体的な活動の場こそが学校ではないでしょうか。

福井先生のお話を聞きながら、また、午後はパネラーの3人とそれぞれの学校の現状についての報告を聞きながら、明日からの学校作りのヒントになることを考えてみませんか?

ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしています。

「道央ブロックのはるがく」報告

38回と回を重ねた「はるがく」(道央ブロック)が小樽降館で27日・28日開催されました。新卒1・2年目の若い先生の参加に加え、沖縄での教職員の集い「ゆいまーる」に参

三木啓彦先生の「アタマとハート」に触れ

加された青年教員からの報告会も開催され、例年に増して若い活気のある学習会となりました。初日は、俱知安高校 木谷弥彦先生の「ストレスをためず笑顔で教員生活を送るには」と題した講演でした。「授業」「担任」「部活」と、教師としての基本項目に原則的にとりくんだ



上に、「地域」や「保護者」「組合の活動」などにも積極的に開かれた教師」としての姿が語られました。



「障害児学校のはるがく」報告 笑顔の花を咲かせよう!

5月27日学です。三木先生には1月に開(土)大雨催しました。「全国学習交流集降る中、障会」での講義を受け持ってもらい、障児学校部の大盛況ぶり!今回も全道各地から若者とちょっと前の若者が70名以上集いました。午前午後三木先生の、事例をもとにした講演でした。結構長い!?!と思いきや、まじめな話もなぜか面白くなってしま(鳥取大学 当に校長先生!?!というように失敗談や笑える本音も話してくれましたが、大人も子どももせめられることのない、安心できる学校なのだろうな、と感じま

した。印象的だったのは褒め方の話。自己肯定感を高めるために、大きなことから小さなことまでたくさん褒める、と考えてしまいがちですが、褒め方も発達段階によって異なってくるのでした。形成的評価ができるように導くことが大切だそうです。子どもの顔が思い浮かびましたね。講演と講演の間には1時間ほど時間を設け、小グループに分かれて意見交流を行いました。三木先生の話を聞いて思ったことや自分の学校の話、思い、疑問・などなど、時間の経過と共に会場もホットになってきました。

その後続いて行われた二部(夜の部)もさながら実践交流会!お酒を交わしながら「子ども」を迎えたことでしょうか。

札幌支部障害児学校部部長 (札幌伏見支援学校)小林勢子

私が一番驚いたのは「趣味の徹底」や「リフレッシュの上手さ」でした。木谷先生のフィナンランドでの「世界選手権」出場(スキーオリエンテーリングマスタース)や4日間自走車で1,330kmを走破した「ブルベ北海道」、更には羊蹄山4コース連続登山を18時間で成し遂げた「超人」ぶりにはただただ驚くばかりでしたが、見事なのは、そのための入念な準備と周囲の

理解を得るための根回しの上手さです。「家庭」「学校」「趣味」のバランスを保ち、自分も生徒も家族も大切に「木谷式ワークライフバランス」は常人にはそのまま真似はできませんが、多忙を極める私たちに希望を示してくれました。夕食を挟んで夜は「ゆいまーる」報告会が行われました。若い2人の先生からスクリーンに映し出される写真を使いながらの報告。辺野古やヘリパッドの反対運動などを実際に目の当たりにした体験は、今後の教師生活の大きな視座となったことが語られました。発表後は、交流会が未明まで尽きることなく続きました。翌28日の午前は、全教共済担当の更科さんから全教共済の説明が行われました。ここでの説明で、全教共済の財政基盤の確かさや補償の確かさが他共済や民間保険より優れていることが語られ、安心感が増しました。交流が深まり、次年度以降更なる広がり期待したい「はるがく」となりました。

札幌支部副支部長 (有明高校)熊木啓二

当番支部として開催に尽力してくださった小樽支部の先生方、ありがとうございました。

校庭に東風吹いて



子どもの生きる力を信じ、私たちはどう生き、教育にどう取り組むのか!

7月29日(日) 10:30 13:30 16:00 18:30
札幌プラザ2・5階(札幌市) 札幌プラザ2・5階(札幌市)
入場料 大人1,000円(当日1,200円) / 小学生 500円(当日800円)
主催 札幌市立東風吹いて、ふるさと 協会 090-9523-4396 様
後援 北海道・北海道教育委員会・札幌市・札幌市教育委員会
特別協賛 公益社団法人日野PTA全国協議会

https://www.youtube.com/watch?v=B6yrKkKzVbo
上記から、予告編が観ることができます。

映画「校庭に東風吹いて」観る会

「映画『校庭に東風吹いて』校庭環境の中で、子どもたち観る会」(代表 小西博光さん)の思いに寄り添って、子どもから、この映画の協力依頼が、あつちの思いに寄り添って、子ども、皆さんにご紹介します。
この映画は、《場面緘黙(か)の心には悲しみをな中、校庭に...》上映会抱えた少女、貧困から様々な問題は引き起こす少年の絶望と苦しみなど、子どもたちの困難に寄り添い、子どもと共に生き、子どもへの愛情を貫いた教師、三木知世の感動の物語です。教師を演じるのは「科捜研の女」シリーズで活躍中の沢口靖子さんです。詳細は、分会へ送ったチラシを参照ください。
この映画は、昨年9月に封切りされましたが、北海道札幌では観賞する機会がないまま今日に至っているものです。
「過度な競争」が強いられ、子どもたちがゆったりできない学校生活を送る中、校庭に...」上映会は、7月23日(日)、札幌プラザ2・5(狸小路5丁目)にて、4回上映。チケットは、プレイガイド(大丸藤井・道新・教文・サンピアザ)、札幌支部等にあります。

